こずかた

No.155
令和６年６月26日発行
盛岡市教育研究所
☎019－651－4111（内7371）
印刷／セーコー印刷　651－3606

非認知能力の育成について

教育長　多田英史

校長時代、「子どもの頃、どんな遊びをしていましたか？」というインタビューに答えたことを思い出している。

春。裏山の樹木に板切れを組み、縄で囲って隠れ家づくり。

夏。川で魚を突く、釣る、手掴みをして、河原で焼いて食べる。

秋。洞窟探検をし、アケビ、栗、柿の実採りをしながら山歩き。

冬。ソリを作って坂道で競争。竹でスキーを作り、道路で滑走。

得意顔で話した私に、「そんなことしていいの？」「怒られないのですか？」子どもたちは驚きの顔で唖然としていた。

まさにこの五十年、子どもの遊び方はもちろん、大人社会の構造も含めて、日本の大きな変革が進められた半世紀と言える。一見、物も豊かで便利になり、合理的な人間関係となり、著しい進歩を遂げたように見える。しかしながら大事なものが次々と失われてきたと、今になって痛感しているが、時計の針は元には戻らないのである。

近年、目標の達成、他者との協働、情動の制御などの非認知能力が見直されている。この能力は、多様な体験を通して身に付くもので、知識・理解・技能のように数値化できる認知能力の獲得において不可欠なスキルである。早い時期での生活習慣や体験が非認知能力につながり、やがて認知能力を育成する、という順序性も明らかにされている。

また、小児科医である成田奈緒子氏は、近著「発達障害と間違われる子どもたち」において、脳の発達する順番について述べている。最初は中心にある生体リズム・欲求・本能の脳、次に大脳の知識・理解・運動の脳、最後に前頭葉にある想像・感情・判断の脳の順に発達する。脳の発達の土台となるのは、まずは本能や野性に通ずる部分の成長であるとしている。

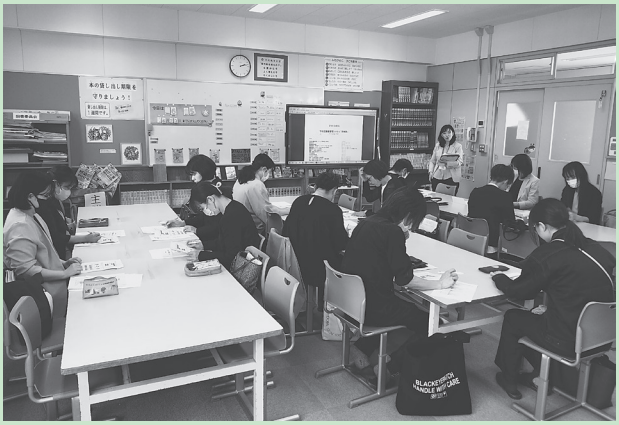
昭和の頃の遊びは前述のとおり、野山や川などの自然の中、遊ぶ道具を工夫し、集団の中での役割分担を通して、自ずと非認知能力や本能が鍛えられた。

令和の非認知能力の育成や生体リズム・欲求の脳の発達については、学校の教育活動だけに留まらず、家庭や地域の理解と協力を得ながら、それぞれの役割分担の中で、生活習慣形成や体験活動に取り組んでいく必要がある。

これまで以上に…。

こずかた写真館㊹

「学校司書研修会」



～読書教育や図書館運営の充実を目指して～

盛岡市では、11名の学校司書を31校に配置し、毎年「学校司書研修会」を実施しています。

今年度は、盛岡市立城北小学校の図書館を会場に、図書管理システムの演習や実践交流等が行われました。

盛岡市教育振興推進委員会総会・講演会

盛岡市の教育振興運動は、今年度59年目を迎える歴史ある市民運動です。また、第十二次五か年計画の４年目となります。

実践のさらなる充実をめざし、運動の方向性を明らかにする場、そして研修の場として、令和６年５月16日(木)、都南文化会館(キャラホール)にて、盛岡市教育振興推進委員会総会・講演会を実施しました。

また、岩手大学　山本　奨　教授を講師としてお招きし、「社会が「不登校」のためにできること～学校・家庭・地域が担う具体的な役割～」と題して、講演いただきました。

令和６年度　盛岡市教育振興推進委員会役員

役　職	所属・団体	所属団体での役職	氏　　名
会　長	盛岡市教育委員会	前教育長	千　葉　仁　一
副会長	盛岡市町内会連合会	会長	小枝指　好　夫
副会長	盛岡市防犯協会	副会長	鎌　田　まき子
副会長	盛岡市PTA連合会	会長	藤　田　健一郎
副会長	盛岡市小学校長会	会長(緑が丘小学校長)	高　畑　嗣　人
副会長	盛岡市中学校長会	会長(黒石野中学校長)	三　浦　　隆

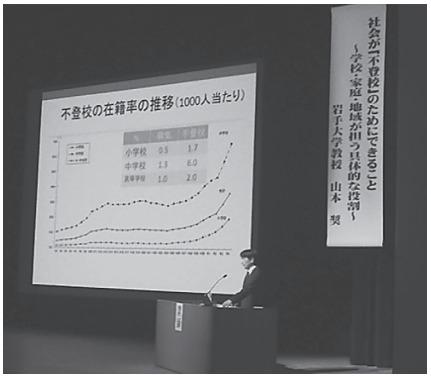
令和６年度の総会は、学校関係者をはじめ、様々な立場の地域の方々をお迎えし、２４１名の参加をいただきました。令和５年度盛岡市教育振興運動事業の報告の後、令和６年度盛岡市教育振興運動事業計画、中学生社会参加活動促進事業、令和６年度推進委員会役員について協議を行い全ての議題について承認いただきました。

続いて、岩手大学　山本教授による講演会を行いました。不登校対策事業は、盛岡市が最も力を入れて推進していく事業の一つでもあります。学校関係者だけではなく、地域住民や市議会議員等が参加する総会で、不登校児童生徒へのかかわりや支援、現在、盛岡市が進めている不登校対策事業についても講演の中でお話しいただきました。参加者の皆様からは、「非常に学びの多い講演会だった。教員以外の目線で語られた不登校の講話はとてもためになった。学校に戻り、さっそく共有したい。」「自分自身も子どもの不登校で悩んだ時期があったので、大変身に染みる内容だった。」「分かりやすく新しい学びがあり、非常にためになった。」など、高評価をいただきました。

「たくましく生きる盛岡の子」を育むために必要な地域・学校・家庭・子ども・社会の五者の連携について、再確認する貴重な機会となりました。

９月末から、今年度の割当となっている６地区の地区別集会が始まり、２月１日(土)には実践発表大会をマリオスで行う予定となっております。

今後も盛岡市の教育振興運動事業への、御支援・御協力をお願いいたします。



【山本教授による講演会の様子】

【令和６年度地区別集会実施予定】

地区（発表学校区）	日　時	会　場
第Ⅰ地区集会 ○大宮中学校区	11月17日（日） 10:00～11:30	大宮中学校
第Ⅱ地区集会 ○厨川小学校区 ○土淵小・中学校区	11月２日（土） 10:00～11:30	土淵小・中学校
第Ⅲ地区集会 ○山岸小学校区	９月28日（土） 10:00～11:30	盛岡市中央公民館
第Ⅳ地区集会 ○高松小学校区 ○黒石野中学校区	10月５日（土） 9:30～11:30	松園地区公民館
第Ⅴ地区集会 ○城南小学校区 ○河南中学校区	10月12日（土） 10:00～11:30	盛岡劇場
第Ⅵ地区集会 ○永井小学校区 ○見前南小学校区 ○見前南中学校区	11月９日（土） 9:30～11:00	都南文化会館 （キャラホール）
第Ⅶ地区集会	令和６年度　発表なし	

教育支援センター「ひろばモリーオ」のセンター機能の充実

「ひろばモリーオ」では子どもたちが安心して過ごし、仲間とのふれあいや体験活動等をとおして、自分たちの居場所をつくるとともに、自己有用感を高め、自立して生きていくための力を育むことができるように、専門指導員が日々サポートしています。

市内に2か所（青山教室・仙北教室）設置されており、それぞれの教室で多くの子どもたちが、学習や運動などに楽しく取り組んでいます。

標準的な日程は左図のとおりです。「計画タイム」は、来室時間によって随時設定しています。また、教室に慣れるまでは個別に対応しています。

令和6年度から、ひろばモリーオの教育相談員による巡回支援を実施しています。

盛岡市の教育支援センターである「ひろばモリーオ」が各学校の「校内教育支援センター」を訪問し、不登校児童生徒への支援策やセンター運営について一緒に検討したり、支援や運営に関わる有益な情報を提供したりすることで、各学校の組織的な不登校対策に資することがねらいです。

一学期は、市内全中学校を訪問し、各校の校内教育支援センターの運営状況や不登校生徒の支援状況について情報収集を行いました。

各中学校では、スクールアシスタントや不登校対策相談員をセンターに配置し、個に応じた学習支援を行ったり、ＩＣＴ活用環境を整備し、授業配信やＡＩ型ドリル学習を行ったりする等、支援の充実がみられました。

二学期以降は、各中学校の対策状況に応じたサポートや小学校における校内教育支援センターの拡充に取り組んでいきます。

小学校の現状としては、校内教育支援センターで支援に当たるスタッフの確保に課題があることから、教育相談員が訪問し、各学校の状況を踏まえながら有効な支援体制と支援策を一緒に検討していきます。また、各学校の状況に応じた「モデル校好事例」の生かし方についても一緒に考えていきます。

小学校における校内教育支援センター運営について先進的に取り組んでいる学校の有効だった支援策や校内体制を「モデル校好事例」とし、全小学校に還元していきたいと考えています。

不登校に悩む子どもを一人でも多く、一日でも早く救うために、本取組は急務です。

【「ひろばモリーオ」が大切にしていること】

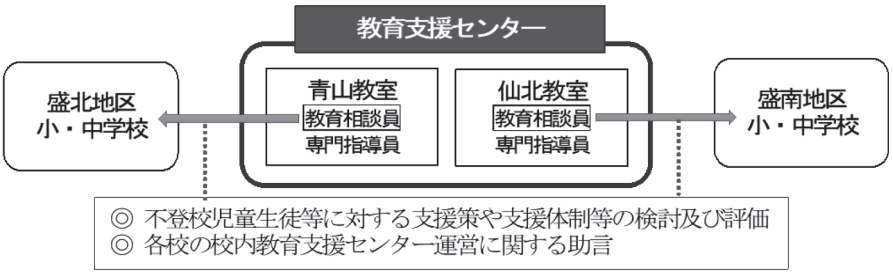
(1) 居場所づくり	ふれあい活動を通して心を癒し安定させます。
(2) 体力づくり	運動の楽しさや喜びを味わい体力を高めます。
(3) 自分づくり	ミーティングや相談活動をとおして、自己を見つめます。
(4) 目的意識づくり	体験活動、高校見学等をとおして、目的意識を育てます。
(5) 自己有用感づくり	様々な体験活動をとおして、自己有用感がもてるよう支援します。
(6) 仲間づくり	思いやり、人との関わり方を考えていけるよう支援します。
(7) 学習意欲づくり	学習計画を立てて取り組むことをとおして、学習意欲と学力の回復を図ることができるよう支援します。

【「ひろばモリーオ」の1日のスケジュール】

日課	時間	主な活動内容	備考
計画タイム	9:00～9:20※ 9:20～9:30	来室、通級日誌記入 あいさつ、今日の予定確認	・調理活動 月に1回程度 ・体験講座（工作、美術等） ・社会貢献活動など
自習タイム	9:30～10:00	自分の計画で学習	
学習タイムⅠ	10:10～11:00	個別学習・グループ学習 体育的活動	
学習タイムⅡ	11:10～12:00	個別学習・グループ学習 体育的活動	
ランチタイム	12:00～13:00	昼食・休憩	
学習タイムⅢ	13:00～13:50	個別学習・グループ学習 体育的活動	
チャレンジタイム	14:00～14:50	自分の選択による活動（学習、読書、ゲーム） コミュニケーションスキル	
ミーティング 振り返り	14:50～15:00	通級日誌記入（1日の反省と明日の予定） あいさつと交流、退室	

モリーオ教育相談員による「アウトリーチ型支援」スタート！

～教育相談員が各学校を訪問し、不登校対策や校内教育支援センター運営をサポートします～



「校内教育支援センター」とは…

市教育委員会では、不登校児童生徒等の支援のため、学習・生活環境や支援体制が整っており、常時又は適宜開室している「教室以外の居場所」、又は、保健室等、本来の用途は別にある場所において、教職員等から受容・共感を中心とした支援が受けられる「ひと休みの場所」として、校内において共通認識されている「部屋」を「校内教育支援センター」と定義しています。

岩手県クラウド版統合型校務支援システムを今秋導入

～教育ＤＸの推進　県内統一運用による教育の質の改善、業務の効率化～

◎統合型校務支援システム導入の背景

近年、学校における働き方改革の必要性が叫ばれており、教員の業務負担を軽減することで、限られた時間の中でも児童生徒に接する時間を確保し、児童生徒にとって真に必要な総合的な指導を持続的に行うことができる環境を作り出すことが求められています。

学校における児童生徒と向き合う時間の創出、及び学校運営の効率化のためには、後述する「統合型校務支援システムの導入」が有効な手段とされています。

岩手県では、県内全ての自治体が参加することを想定した上で、当該システムの基幹システムを令和５年度中に構築、令和６年４月から一部の市町村で先行運用を開始、最終的には、令和８年度に全県統一での運用を目指しています。

盛岡市では、令和６年秋のシステム運用開始に向け、作業をしています。

なお、岩手県ではこの全県統一によるシステムを左図のとおり、未来への投資と位置付けています。

1. 県内すべての学校に統一した校務システムを配備する。
   - 県内すべての学校の先生と子どもたちのために、地域や規模に差のない学校環境を創る
2. 全県でムリ・ムダ・ムラを排除する。
   - やるべき業務の質を上げるため、様式の統一、教職員の異動の際等の負担軽減をめざす
3. 子どもたちのために正確な情報を共有する。
   - 情報を共有できる素地を創り、小中の連携を図る
4. 教育の質的向上を全県で目指す。
   - 多様な情報を一元管理し、データ分析等による指導改善等に役立てる

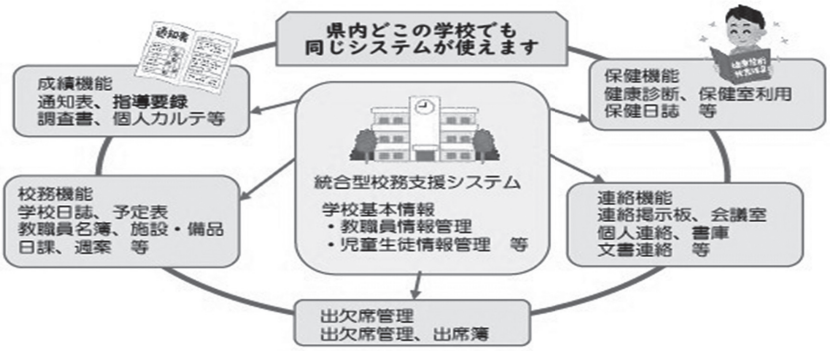
◎統合型校務支援システムとは？

統合型校務支援システムとは、「教務系（成績処理、出欠管理、時数管理等）・保健系（健康診断票、保健室来室管理等）・学籍系（指導要録等）など統合した機能を有しているシステム」を指し、成績処理等だけではなく、グループウェア（掲示板、イントラメール、スケジュール、文書管理等）の活用による情報共有も含め、広く「校務」と呼ばれる業務全般を実施するために必要となる機能を実装したシステムです。

児童生徒の学力や日常的な行動、心身の健康状態などの多様な情報を、校内での一元管理・共有・発信等することにより、指導改善等に役立ち、教育の質的な向上を図ることが期待できます。

また、「手書き・手作業」が多い学校現場の業務改善を図る観点でも有効であり、例えば、成績データを通知表や指導要録へ自動移行できることにより、転記にかかる時間やミスを減少できる等、業務の正確性の向上を図ることが期待できます。

このように、統合型校務支援システムは、広く学校運営を支える情報基盤であるといえます。



◎統合型校務支援システム導入の効果

全県統一によるシステムの構築、すなわち共同調達・共同利用により、共通のシステムを使用することでコスト削減効果が期待されるほか、次のような効果が期待できます。

Ⅰ．異動教職員の負担軽減

①基本的に岩手県で採用される教職員は、他市町村へ異動した際にも同じシステムを使用できます。そのため、一から操作方法を覚える必要がなく、引継ぎに要する負担が軽減されます。

②児童生徒に関する情報がシステムに保存されているため、異動後に児童生徒の指導に必要となる情報を把握しやすくなります。

③定量的効果として、業務時間の削減等の効果が見込まれます。大阪市の例では、クラス担任の校務に関わる時間が年間１６８時間削減され、導入２年目には、年間２２４時間削減されるなど、児童生徒と向き合う時間の創出にシステムが貢献しました。

Ⅱ．転校先・進学先との児童生徒情報の共有

①県内で同じシステムを利用し、児童生徒のデータを管理することができれば、児童生徒が転校・進学した際に転校・進学先の学校にデータを受け渡すことが容易となります。

②児童生徒が小学校から中学校、更には高等学校へ進学する際、児童生徒の情報を引き継ぐことで、6・3・3の12年間にわたり、児童生徒の成長の情報を記録・管理することが可能となります。

Ⅲ．教育委員会と学校との情報の共有

①県内で同じシステムを利用することで、県と県内市町村の学校で管理される情報が統一化され、岩手県教育委員会、県内市町村教育委員会、学校の間の情報の受け渡しが容易となり、情報共有にかかる事務処理負担が軽減されます。

②教育委員会では、情報把握が容易となり、教育施策の効果等をよりきめ細かく収集・分析することが可能となります。

Ⅳ．児童生徒に関連する効果

①学習指導の質の向上

成績データを出力して分析することにより、児童生徒に対するきめ細かいフォローが可能になることに加え、業務時間の削減によって教材研究等の時間を確保でき、授業力の向上のために時間を費やすことができるようになります。

②生活指導の質の向上

出欠等から児童生徒の情報をきめ細やかに把握でき、教員間で連携できるため、生徒の変化に対して、より早急に対応できるようになり、いじめや不登校の防止にもつながることが期待されます。

Ⅴ．教職員に関連する効果

前述した「異動教職員の負担軽減」のほか、これまで手書きしていた業務を電子化することにより、転記ミスが減少して業務の正確性が向上するほか、特定の教職員に偏っていた業務を適切に分担することにより、作業量を平準化するなど、教職員の日常的な業務全般が効率化されることが期待できます。

情報セキュリティについて

～適切なセキュリティの確保に向けて～

ＧＩＧＡスクール構想も４年目を迎え、各学校で全児童生徒に配られる「ＧＩＧＡ端末」を活用したＩＣＴ実践学習に取り組まれていることと思います。

教育の情報化が進み、教材や文書の共有、成績の一括管理等が行われるようになり、大変便利になりました。

その一方で個人情報の漏洩など、情報セキュリティにおけるインシデント（事故）が多いのもまた事実であり、「本当に学校の情報セキュリティは大丈夫なのか？」と心配の声も聞かれます。

それでは、教員が注意すべき情報セキュリティはどういったものでしょうか。

Ⅰ．学校で扱う個人情報

学校では、指導要録、通知表、健康診断票及び家庭状況調査票など、さまざまな個人情報を扱います。それらの情報は適切に管理されているでしょうか。万一にも個人所有の端末にデータを保管したり、不適切に情報がコピーされていたりするということはないでしょうか。また、保管期間が経過したものは適切に廃棄されているでしょうか。

令和６年10月以降は、盛岡市でも統合型校務支援システムの導入により、一段と情報セキュリティが強化されます。過去のデータについても今一度適切に処理されているのか確認が必要です。

Ⅱ．児童生徒の情報セキュリティ

ＧＩＧＡスクール構想により全児童生徒が一人一台の端末を持ち、各家庭への持ち帰りも始まっています。大切な個人情報がＳＮＳに公開されるなどという行為はあってはならず、不適切な利用は、いわゆるネットいじめの温床に繋がる危険性をはらんでいます。

教員の皆様には、児童生徒に情報セキュリティの大切さと、いわゆる「情報モラル」を含めた指導をお願いします。

なお、盛岡市では一人一台端末の使用方法について児童生徒には個別のＩＤを付与しておりますが、メールアカウントを付与していないほか、端末でのＳＮＳの利用ができないような設定となっています。

Ⅲ．むすび

ＩＣＴを取り巻く環境は大きく変化しています。しかし、学校における情報セキュリティの目的は、「ＩＣＴ教育を円滑に進めるため」、さらに「適切なセキュリティの確保された環境を整える」ためであり、情報セキュリティのインシデントの発生を防ぐ基本的な考え方は昔から変わっていません。

重要なのは、「生徒や教員が情報に対する脅威や予防法を正しく理解し、充分な対策を行うこと」に尽きます。

令和6年度
盛岡市教育委員会　初任者研修会

春の穏やかな光が差し込み、窓からは満開に咲く桜を見ることができた盛岡先人記念館で、4月12日に「令和6年度盛岡市教育委員会　初任者研修」を行いました。当日は、小学校29名、中学校10名、合計39名全員が参加することができました。

開会行事では、主催者を代表して、佐々木寿洋教育次長兼学校教育課長から、晴れて4月から教壇に立つ初任者を祝い、歓迎するとともに、これから一緒に盛岡市の子どものために教育を推進していきましょう、と温かい言葉をかけていただきました。

その後、「盛岡市の教育」について、多田英史教育長より、講話をいただきました。多田教育長からは、教師の魅力、教師の使命、盛岡市の教育長としての心構え、教諭時代のエピソード、岩手県教委時代の東日本大震災の対応、盛岡の先人教育などについて、ご自身の経歴を踏まえながらのお話を伺うことができました。初任者は、多田教育長の初任校である大慈寺小でのエピソードを、今の自分と重ねながら聞いているようでした。

また、多田教育長が岩手県教委学校教育室義務教育課長の頃の、東日本大震災への対応と取組や「いわての復興教育」プログラムの作成・監修について、初任者は食い入るようにスライドを見ながら、講話を聞いていました。最後には、教師であることを感謝すること、感謝の気持ちを忘れないこと、どの子どももどの人も愛することについてのお話がありました。

見前小・千葉智喜教諭からは、「初任校の大慈寺小以降の経歴でもその時々に応じて、必要なことに励まれていることに感銘を受けた、自分も頑張りたいと思った」と感想が発表されました。

その後は、「盛岡市の学校教育の推進・充実に向けて」、学力向上の推進、体力向上の推進、生徒指導の充実、特別支援教育の充実について、各担当指導主事から説明し、午前の部を終わりました。

午後は、「盛岡の先人教育」について、盛岡市先人記念館の久保智克前館長より講話をいただきました。久保前館長からは、「盛岡の教育ビジョン」とめざす市民像として、「多くの先人を育んできた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体をもち、自ら学び、共に生きる未来を創る人」が話された上で、学校教育の中で「先人教育」は、キャリア教育と密接に関係していると説明いただきました。

そして、先人教育が「めざす子ども像」を、幼稚園・保育所（園）、低・中学年、高学年、中学校と年代別に単元構成例、実践事例を説明いただいた上で、初任者自身で単元構想をする演習を行っていただきました。

上田中・門前柊馬教諭からは、「実際に単元構想する難しさを感じながらも、盛岡に住む児童生徒に先人教育を通して、キャリア教育を進める意義を強く感じた」と感想が発表されました。

久保前館長の講話の後は、先人記念館内を見学しました。学芸員の方に説明をいただきながら、新渡戸稲造、金田一京助、米内光政ら盛岡の先人について理解を深めていました。初任者の中には、自校の児童生徒を連れてまた訪れたいと感想をもつ方も多くみられました。

見学後は、「教員生活のスタートを振り返って」と題し、4人グループで、うまくいったことや困ったことについて交流した上で、全体でも交流をしました。市初任者研修までに溜まっていた思いの丈を、和気あいあいと話していました。また、授業参観日が迫っている研修者が多くいたため、参観授業ではどのようなことをしようか、アイディアを出し合う場面が多く見られました。初任者の発言からは、保護者に、学習に懸命に励む児童生徒の姿をお見せしたいと、保護者の視点で考えている研修者が多くいて、頼もしく思いました。

長い教員生活のスタートを切った初任者の皆さんのこれからの活躍に期待します。

【米内光政像の前で（館内見学グループ毎）】

チームもりおかで推進する特別支援教育

新しい『いわて特別支援教育推進プラン』と盛岡市の現状

令和６年度、これまでの推進プランを引き継ぎながら、岩手県の特別支援教育の現状や方向性を整理し、新たに「いわての特別支援教育推進プラン（２０２４～２０２８）」が策定されました。

本推進プランには、目指す姿として「共生社会の実現～すべての人がお互いを尊重し、心豊かに主体的に生活することのできる地域づくり～」、基本理念として「共に学び、共に育つ教育の推進」が掲げられています。

本市においても、共に学び、共に育つ教育の推進に向け、市全体或いは各園、各学校において、様々な取組を行っているところです。

本市の特別支援教育の状況として、園や学校における学びの多様化や合理的配慮の認識が広がり、特別支援教育のニーズが高まっています。

市では、これらのニーズに合わせて、各種研修や出前講座の実施、巡回相談事業などを行っております。

また令和６年度は、特別支援学級が全体で13学級増となり、これまでなかった種別の特別支援学級の新設や、学校の御協力をいただきながら、医療的ケアの体制整備も進んでいるところです。

これらの整備が進む一方で課題もあります。

例えば、特別支援学級の増加等のため、初めて特別支援学級を担任される教員が増えたこと、ベテランの教員の転勤や退職により、授業や進路等の指導に長けた教員が減っていることなどが挙げられます。

これらの課題に、これからは「チームもりおか」として取り組んでいく必要があります。

動き始めるチームもりおか

前述の課題を受け、「特別支援教育担当者・特別支援教育チーム委員合同会議」において、「中学校区ブロック等で拡大授業研究会や学校交流、情報交換などを進め、チームで特別支援教育の推進に取り組むことで、初めて担任される先生の不安の払拭や、盛岡市全体の特別支援教育の推進につなげたい。」とお願いしました。

現在、各中学校区より、チームで進める取組の御報告をいただいておりましたので、いくつか紹介します。

米内中学校区

米内中、米内小では、９月に「ものづくり体験」を合同で行うそうです。岩手県職業能力開発協会に厚生労働省事業として協力を依頼するとのことでした。交流によって指導のノウハウや児童生徒支援に関する情報共有が促進されそうです。

見前中学校区

見前中、見前小、津志田小の校長先生が集まり、今後の中学校区での特別支援教育の連携・推進について話題にしていただきました。

まずは、３校で「できることから」「できる範囲で」「参加できる学校が」というスタンスで活動を始めてみようということを共有されたそうです。

特別支援学級担任からは、「中学校の授業を見に行ってみたい。」「ベテランの先生の支援や指導を聞いてみたい。」「ブロック研等で、拡大授業研ができれば。」というお話も出ているようです。校長先生同士で、共有をいただいたことで、担当教員同士の連携もスムーズにいきそうです。

特別支援教育について
話し合う３校の校長先生

下小路中学校区

下小路中、山岸小、仁王小では、ブロック研の際に、各校の教育課程の交流やケースカンファレンスを合同で行おうと計画をしています。実際の授業の流れや教材、支援の方法について共有することで、指導の幅が広がりそうです。

盛岡市特別支援教育研究会

市特研では、５年振りに「合同運動会」が開催されました。特別支援学級に在籍する児童生徒が、学校の代表として、全校の応援や交流学級の友達からの励ましを背に精いっぱい運動や応援に励む姿が輝いていました。

引き続き、市特研の行事を通じて児童生徒の活躍の場が広がり、校内や中学校区の交流が盛んになることを期待いたします。

「チームもりおか」による盛岡市の特別支援教育の今後の充実が楽しみです。

盛岡市教育研究所　公開講座の御案内

◆ **期　日**　令和６年８月１日㈭、２日㈮、６日㈫

◆ **参加者**　市内保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校教職員のうち受講を希望する者

◆ **日程及び内容【会場】**　（講師、非常勤講師等を含む。）

【１日目（1日㈭）】

9:30　9:45　9:50　　11:50　13:00　13:15　13:20　　15:20

受付	開会行事	【講座（120分）】 ① ICT 活用講座（校務支援システム）【オンライン】 ② 教育相談基礎講座【都南公民館】 ③ 盛岡の先人講座【先人記念館】 ④ 特別支援教育講座Ⅰ【都南公民館】	休憩	受付	開会行事	【講座（120分）】 ⑤ ICT 活用講座（デジタル教科書・小学校英語）【オンライン】 ⑥ 小・中体育実技講座【西部公民館】 ⑦ 幼・保・小接続を意識した幼児教育講座【都南公民館】 ⑧ コミュニティ・スクール講座【都南公民館】

【２日目（2日㈮）】

9:30　9:45　9:50　　11:50　13:00　13:15　13:20　　15:20

受付	開会行事	【講座（120分）】 ⑨ ICT 活用講座（校務支援システム）【オンライン】 ⑩ 小・中授業づくり講座（国語）【都南公民館】 ⑪ 盛岡の先人ウォーク体験講座【屋　外】 ※（9：30～11：50） ⑫ 原敬講座【原敬記念館】	休憩	受付	開会行事	【講座（120分）】 ⑬ ICT 活用講座（デジタル教科書・小学校算数）【オンライン】 ⑭ 生徒指導講座（不登校）【都南公民館】 ⑮ 自殺予防教育講座【都南公民館】 ※（13：20～16：00） ⑯ 特別支援教育講座Ⅱ【都南公民館】

【３日目（6日㈫）】※特設講座

⑰　思春期講演及び思春期保健教室　※（13：30～16：00）　【都南公民館】

※今年度、「特設・伝統文化教員体験講座」は開講されません。

※「ICT 活用講座（統合校務）」①と⑨は同内容、市立小・中学校の悉皆研修（どちらか１日に参加）とします。各校から３名程度の参加をお願いする予定です。

※「ICT 活用講座」（統合校務）・（デジタル教科書）以外の講座は、定員を超える申込みがあった場合、抽選とさせていただく予定です。

※当公開講座についてのお問い合わせは、教育研究所：佐々木（亘）までお願いいたします。　℡ 651-4110（内 7335）

【研究事業】

今年度、研究員研究、委託研究、専門研究員研究、合わせて11の研究主題を設定し、取り組んでいます。

委　託　研　究

1　学校教育相談に関する実践研究	盛岡市教育相談事例研究会 盛岡市立北松園小学校
2　小中学校におけるキャリア教育の在り方に関する実践研究	キャリア教育研究会 盛岡市立仙北中学校 盛岡市立仙北小学校 盛岡市立向中野小学校
3　学校における盛岡の先人教育の実践研究	先人教育委託研究会 盛岡市立大宮中学校区 盛岡市立北陵中学校区

研　究　員　研　究

1　算数・数学科における実践研究	作　山　智　美（城北小） 増　尾　悠　大（飯岡小） 小　山　裕　香（仙北中）
2　中学校外国語科における実践研究	大　澤　郁　恵（黒石野中） 伊　藤　　諒（見前中） 中　坂　明　子（渋民中）
3　小中学校における「体力向上」に関する実践研究	千　葉　貴　大（緑が丘小） 鳴　海　　僚（城北小） 菅　原　優　香（下小路中） 髙　峯　大　輔（北陵中）
4　社会科副読本を活用した授業の在り方に関する実践研究	飯　岡　竜太郎（桜城小校長） 金　野　浩　二（津志田小） 岩清水　裕　行（向中野小） 矢　野　　崇（中野小） 赤　石　　茜（見前南小） 三　浦　一　太（緑が丘小）

専　門　研　究　員　研　究

1　不登校児童生徒への対応に関する研究	阿　部　真　一 専門研究員	3　特別支援教育に関する研究	山　崎　伸　一 専門研究員
2　小中学校におけるＩＣＴ活用に関する研究	佐々木　秀　一 専門研究員	4　盛岡の教育の歩み	山　崎　伸　一 専門研究員

あとがき

▼今回の所報「こずかた」から、デジタル版で送付となります。先生方の校務型端末（黒パソ）からいつでもご覧いただけるようになりました。▼このように本市においても教育ＤＸの推進が加速化しています。いよいよ今秋導入の「統合型校務支援システム」による学校文化の革新に、多くの教職員が期待を寄せていることと思います。▼業務全般が効率化されることにより、児童生徒の学力向上や心身の健康安全のために時間と労力を費やすことができ、「安心して学べる学校づくり」の実現につながるものと考えます。▼同時に、多様な学びの場の在り方も考えていく必要があります。「ひろばモリーオ」のアウトリーチ型支援が、その役割を担うべくセンター機能を発揮していきます。▼デジタル化、効率化、多様化と社会の変革によって、私たち人間が変わったものとは一体何でしょうか。教育者として、親として、大人として、巻頭言の教育長の言葉が琴線に触れます。「時計の針は元には戻らない」であれば、私たち大人はこれからどう針を進めていければよいのでしょう。子どもたちの笑顔のために。家庭と地域とともに。